

Face to Face

TICOは徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.45 2016年11月号

ザンビア募金

TICO奨学金（学費）支援

皆様からご支援いただいた寄付金の用途について、報告致します。

☞p.2

ザンビア

母子保健プロジェクト

モンボシで実施した料理教室の模様と、ムワブラ診療所の新しいスタッフをご紹介します。

☞p.3,5

分娩室改装プロジェクト

前々号で募金を募った、ムワブラ分娩室の改装工事が無事終わりました！その御礼と共に完了報告を致します。

☞p.4-5



それぞれの役割と所属先を記したエプロンは、TICOから住民保健ボランティアへの贈り物。誇らしげに一層仕事に励むボランティアの皆さん。



ザンビア募金☆進捗報告

瀬戸口 千佳（コミュニティ活動専門家/業務調整員）

新しく支援対象となったのはマケニ地区にある小学校、その教員用住宅の建設事業です。2013年から2014年にかけて、ザンビア募金で改良換気型トイレ設置を支援した学校でもあります。当時はコミュニティスクールと呼ばれていましたが、今年からは公立の小学校へ格上げされたことを受けて、現在1名しかいない有資格教員の数をさらに増やすべく、去年からPTAが中心となって建設に必要な1万個以上のレンガを焼き上げてきました。

マケニ小学校は1年生から7年生までの生徒350名が在籍しますが、先生は有資格者1名を含めて4名。今回建設する教員用住宅

は3部屋あるため、教員数の大幅増が見込めます。今年中には完工式典を執り行い、その式で新しく着任する教員のお披露目もしたい、と意気込んでいます。

なお、ザンビア事務所が来年3月に閉鎖することを受けて、本号の発行を以て、ザンビア募金については新たな寄付を募ることは致しません。ザンビア募金で支援している全事業がつつがなく完了するまで、温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。



▲基礎工事開始



▲工事開始から一ヶ月



▲更に一ヶ月後

TICO奨学金（学費）支援

前々号にてご協力をお願いした学費支援ですが、去年からの繰越金を併せて無事に8年生、9年生（日本の中学2,3年生に相当）各15名、計30名分の授業料（年間）を支払うことが出来ました！心より御礼申し上げます。2口以上ご支援いただいた方には、奨学生からの手紙をお送りしています。（※8月上旬にお送りしましたが、郵便事情のせいか時間がかかっているようです。恐れ入りますが、今しばらくお待ち下さい。）

なお来年3月でザンビア事務所は閉鎖しますが、今年度の支援対象である8年生については、来年度（9年生）分の授業料もサポートする予定です。ザンビアの学校は1月始まりですので、進学試験の成績などを確認し、継続支援の可否を決定します。今年の7月以降にいただいたご寄付は、この来年度の授業料に充てさせていただきますのでご理解をお願いいたします。

8年生



9年生



▲奨学金の対象となった生徒たち▲

ザンビア／チサンバ郡

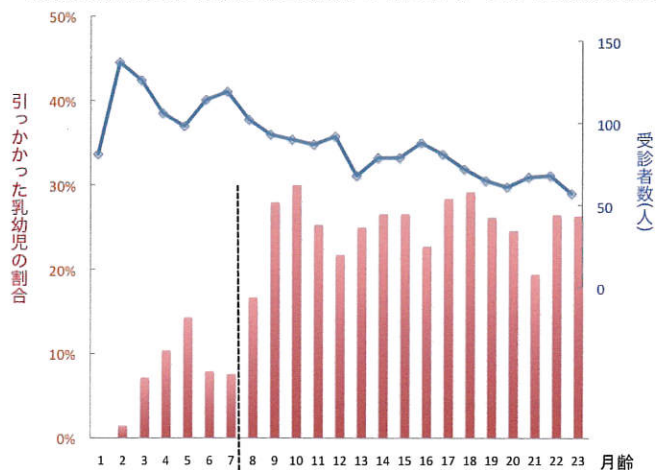
総合的な農村母子保健を支える“地域力”強化事業

♪ 離乳食教室 ♪

杉本 尊史（保健医療専門家）

下のグラフは、モンボシ地域における2歳未満の子どもの体重測定結果をまとめたものです。13ヶ所の健診場所をそれぞれ4回（つまり、通算52回）訪れて、総勢2,030人を調査しました。

乳幼児健診受診者数と体重測定で“引っかかった”乳幼児の割合



健診では子どもの体重を測定します。もし前月と比較して体重が増えていない、もしくは平均より大きく（標準偏差の2倍以上）下回っていたら、その子どもは健診で“引っかかった”ことになって、カウンセリング（問診）を受けることになります。グラフは、月齢ごとの子どもの人数と、“引っかかった”子どもの割合を示しています。これによると、生後8,9ヶ月くらいから“引っかかった”子どもの割合が増えているのがわかります。なぜでしょうか。



▲パウンドして、ふるいにかけます。

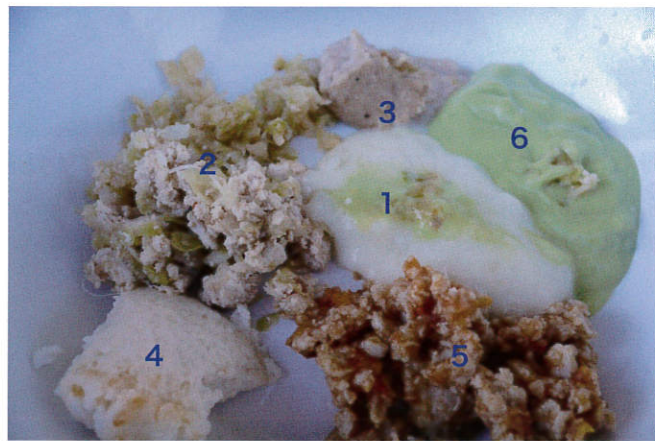
理由は、おそらく離乳食にあると考えられます。世界保健機関は、生後6ヶ月までは母乳のみを与え、離乳食は6ヶ月を過ぎてから開始することを推奨しています。言いかえると、6ヶ月以降の成長には、母乳に加えて離乳食からの栄養が必要ということになります。そしてグラフが示唆するのは、離乳食の栄養が十分でないかもしれないということです。（なお、グラフでは、生後5ヶ月にかけて引っかかった子どもの割合が増えた後、6,7ヶ月で減少しています。その理由はいくつか考えられると思いますが、ここでは省略します。）

ザンビアでの離乳食の定番は、製粉した白トウモロコシをお湯に溶いたお粥です。これに落花生の粉を混ぜることもありますが、それ以外にはバリエーションがほとんど無いと言えます。

2016年6月、モンボシヘルスポストの看護師と共同で、住民保健ボランティア(19名)を対象に離乳食の料理教室を開催しました。看護師が用意したレシピは6種類。多彩な食材を手でほぐしたり、

杵でついたり(パウンド)、ふるいにかけたりした後に、炭火に置いた鍋で煮詰めます。このような手間ひまをかけることで、いろんな食材を離乳食に仕立てることができるのをボランティアたちは学びました。

レシピは以下の通り。



1. サイコロ大に切ったじゃがいもをゆでながら、ペースト状になるまでつぶす。
2. さばいて骨と分けた鶏肉を、パウンドして塩ゆでにする。それにキャベツとトマトをパウンドしたものを合わせて、一緒にゆでる。
3. 干し魚は身をほぐしてからパウンドする。さらにそれをふるいにかける。それを煮詰めて、パウンドした落花生とトマトを足してさらに煮る。
4. 米をパウンドした後に、ふるいにかける。それを牛乳と一緒に炊く。
5. おろした魚の切身をパウンドして、パウンドしたトマトと一緒にゆでる。
6. よく熟れたアボガドに、サワーミルクと砂糖を加えながらペースト状につぶす。

参加したボランティアたちがこのアイデアを持ち帰って、自分たちの村の人々に伝えてくれることを期待しています。



▲レシピ5。パウンドした魚のトマトスープ煮込み



▲最後にみんなで試食しました。

ついに完成！ ムワプラ分娩室改装プロジェクト



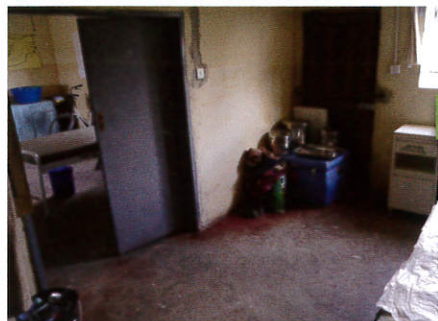
Before (改装前)



◀分娩室の外側にベランダを建設しました。さっそく妊婦さんがくつろいでいます。診療所の壁も白ペンキで塗りなおしました。

前々号で、募金のお願いをしておりましたこのプロジェクト。おかげ様で目標金額10万円を大きく上回る、**454,830円**の寄付を頂戴致しました！そのため、当初の計画をさらに拡充した改装を行うことができました。皆様に心よりお礼申し上げます。いただいた寄付金は、備品の購入と改装のための労賃に使わせていただいています。改装後の写真をご覧ください。

Before (改装前)



After (改装後)



◀壊れたドアを新調しました。カーテンもつけました。床にはタイルを敷いて、壁にはペンキを塗り重ねました。



◀収納を見直しました。分娩台側の壁にはタイルを貼りました。

▶追加のベッド、机・椅子、折り畳みマットレス、手洗い用バケツを購入しました。



◀妊婦さん用のトイレ。穴をふさぎ、便器と手すりをつけました。ドアも新調しました。

診療所で毎週火曜日に行われる妊婦健診に合わせて、リニューアルした分娩室のお披露目を開催しました。健診を受けに来ていた妊婦さんとその旦那さん約20名、健診を手伝う住民保健ボランティア5名、診療所スタッフ1名が出席しました。

たまたま健診に来て会に参加したある妊婦さんは、自ら立ち上がりて御礼を述べるとともに、「この分娩室のことを村の人々に伝えるわ。」と約束してくれました。また、長年ボランティアを続けてきた女性は「今

まで私たちの仕事は報われないと思っていたが、日本の人々のおかげで報われた。」と感慨もひとしおのようでした。ささやかなお披露目会でしたが、その場にいた人たちの素直な喜びと感謝に満ちた会となりました。

今後は、この分娩室が有効に活用されるように、診療所スタッフやボランティアたちと共に活動が続けていきます。御協力くださった皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。



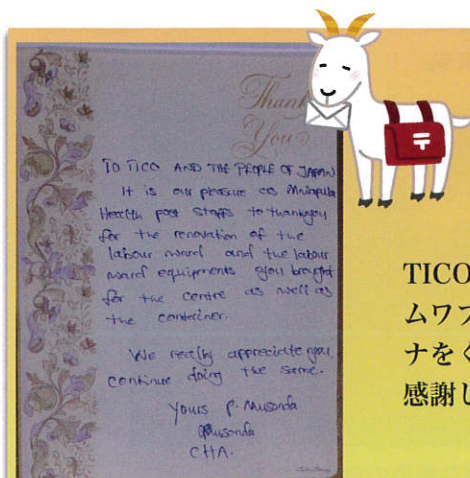
▲お披露目会で改装したトイレとシャワー室を見学する妊婦さんたち。洋式の便座を取り付け、頑丈なドアとそれを雨から守る庇をつけました。外壁も白ペンキで塗りなおしています。



▲改装後、出産第一号となったお母さんと赤ちゃん。二十歳の母親の記念すべき初産。3,500グラムの元気な赤ちゃんが生まれました！



▲▼物置用のコンテナを購入し、村まで運んできました。診療所内の妊婦健診用の部屋に積み上げるしかなかった荷物やバイクをコンテナに保管することで、部屋が片付きました。



診療所のスタッフ、パトリシアさん（下記参照）からお礼のメッセージが届きました！

◀手紙の和訳

TICOと日本の方々へ

ムワブラ診療所職員として、分娩室の改装と備品、コンテナをくださったことに御礼申し上げます。私たちはとても感謝しています。引き続きよろしくお願い申し上げます。

パトリシア・ムソングダより

CHA



パトリシア・ムソングダさん
母子保健の責任者。分娩室の改装時には、彼女の意見を大いに参考にさせていただきました。

ムワブラ診療所新スタッフ紹介

Face to Face 42号で、ムワブラ診療所の所長と清掃作業員を紹介しました。その若い2人で何とか切り盛りしていたところに、“チャー”と呼ばれる職種の2人が新たに配属になりました。“チャー”とはCHA(Community Health Assistant)の呼称です。CHAは、ザンビア政府が2010年に創設した保健医療従事者です。農村の若い住人の中から選抜され、プライマリケアに関する1年間の研修を修了した後に、出身地の診療所に配属されます。今回、ムワブラ地区出身の2人が研修を終えて戻ってきました。これで4人体制になったムワブラ診療所。TICOは、彼らと協力して地域の母子保健の向上をさらに加速させていきたいと思っています。

ゼイビヤー・モノさん

診療所所長から外来の責任者を任されました。バイクを運転できる特技をいかして、出張健診にも出かけます。



★ 新生TICOに向けて！続編！

前号で、団体の今後の方向性について検討していることをお伝え致しました。8月には、二度目となる合宿形式での話し合いを行い、TICOの理事に加えて、今回は各事業に関わる職員も参加し、まずは現状をしっかりと見つめ直す機会としました。

今回の話し合いの目的は「団体が置かれている現状を関係者が十分理解し、その上で今後の団体のあり方、ルール、方針等について決める」こと。この目的を果たすため、今回は外部からファシリテーター（中立的な立場から議事進行する役割）の専門家をお呼びし、参加者全員が議論に集中できる環境を整え、限られた時間でいかに本音を出し合って建設的な話し合いが出来るか、ということに努めました。



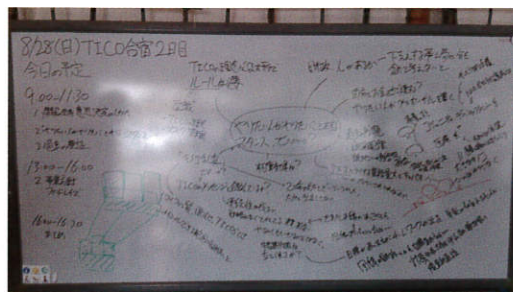
▲ファシリテーターをお迎えして

そのかいもあって、当事者同士だと面と向かって話しにくいことについても、時間はかかりましたが率直に意見を交わし、共通理解をはかることが出来ました。この過程を経て、以下のこと等が決められました。

◎業務の効率化や、情報共有・意思決定のための仕組み。

◎実施中の海外事業の円滑な終了と事業成果の取りまとめに力を注ぎつつ、同時に新規案件の形成を、ニーズ調査を踏まえて半年から一年かけてじっくり行うこと。

@「持続可能な社会の構築」というTICOの目指す目的に沿い、その実現に向け行動したい人がそれぞれのアイディアと資源を持ち寄り挑戦出来ること。



▲一日目は主に現状把握、二日目は今後の方向性等について、話し合いました。

引き続き検討が必要な課題としては、これまでのTICOの事業を振り返った上での団体としての『知恵』や『価値』の抽出、上記決議事項に関する運用ルール作り等が挙げられました。

今回の話し合いを変革の第一歩として、引き続きTICOの在り方等についても議論を重ね、より良い活動、より良い組織に向けて試行錯誤して参ります。



▲真剣な表情の参加者たち

猫目線

2年連続の雨不足で、一日の半分は断水するルサカから、猫のチャイがお届けする猫目線。村に出張でいく際、すぐに安全な水が手に入る環境にないことも多いため、水分を携行するのが常のご主人。ときにペットボトルにお茶を入れて持参するのですが、それを初めて見た村人からはほぼ確実に「それはお酒か？」と聞かれるそうです。いやいや、真っ昼間やし！！仕事やし！とご主人はいつも否定しながら、なぜそんな質問になるの？？と思っていた

のですが、お茶といえば温かいもので、冷たい／常温の色のついた水分イコール酒、と彼らの頭の中では変換される模様。お酒をペットボトルに入れるのか、と思われるかもしれませんが、量り売りされるお酒もあるんですね。ペットボトルを片手にふらふら歩く酔っ払いを目撃してからは、あれと同じにされたのか、、、とさらにショックを受けたご主人でした。しかし、中身がお茶と聞いた後、男女では反応が異なるのがおもしろいところ。男性はそのあと「お酒飲める人？」という質問になり、女性は「それ体にいいの？（※大抵は痩身に効くかという意

図）」という質問になり、飲める男性なら「今度一緒に飲みに行こう」、飲まない男性なら「お酒は飲むもんじゃない」、女性なら「今度、私にも茶葉を頂戴」というパターンでやりとりが終了します。ところ変われば、とはよく言ったものですね。ニャー。



「社会を変える意気込み」

TICO代表 吉田 修

世の中には「社会を変える意気込み」を持って行動する凄い人達がいるので紹介したい。

ジャパンバイオファームの小祝政明さんと、そのザンビアでの活動を取り仕切る山本和子さん。簡易な土壌分析と施肥の技術を開発し、ザンビアの小規模な農民にも利用可能な方法で農業生産を劇的に向上しようとしている。既に4箇所のパイロット事業で、ほんの2～3年の間に年収100万円を稼ぐ農家が数百人も出ている。それを見た隣の農家はもちろんその技術を取り入れる。本気でザンビアの農業を変える強い意気込みがある。

徳島大学の内藤教授（眼科医）は、世界の失明を無くそうと、アジア／アフリカで精力的に活動されている。まず、すぐに成果が見える白内障手術を短期間で集中的に行うアイキャンプから始め、相手国の眼科医を育てつつ、眼科治療が行える拠点を作っていく。成果が見えるまでに10年はかかるそうだが、確実に前進している。

どちらの活動も非常に優れた技術を生かし、それに特化して短期間で素晴らしい成果を見せながら、相手国のカウンターパートと現場での活動を戦略的に融合し国全体に広めて行く。

イラク自衛隊派兵差し止め訴訟をおこし勝訴した池住義憲さんは、常に「変革は可能だ」「無力感を克服する」と教えてくださった。「なぜ裁判に勝てたと思いますか？」と我々に問いかけ「裁判を起こしたからだ」と言われた。

私自身、ザンビアの農村の状況、医療事情を長年観察して、どこか内心「あきらめ」があったかもしれないと反省している。小さなNGOが少々がんばっても社会は変わらないと。大規模な干ばつの後、「干ばつに強い村づくり」を掲げて活動している。確かに保健の分野で改善が見られたり、コミュニティスクールが良くなったり、成果も上がっているが、その実現への道のりはまだまだ遠い。

社会を変える意気込みを再確認し、成果を上げている人達と連携する、あるいはその手法を取り入れるなど、TICOも戦略を練りなおし再出発したい。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

写真：TICOの正会員であり、ザンビア国南部州ジンバの病院で働く三好医師（右）を訪ねた吉田（右から二番目）。病院のスタッフと共に撮影。

着任の ご挨拶

国金さつき（事務局員）

皆様はじめまして。4月よりTICO事務局員に着任致しました国金さつきと申します。徳島県西部の池田町出身です。

国際協力の道に進みたいとの思いから、大学進学時から外へ外へと目を向けてきましたが、アジアやアフリカでの様々な体験や出会いを通じて、自分の足下も見直したいと考えるようになり、現在は国内を拠点にした活動に従事しております。

地方に根付き、国内外双方向の取り組みをしているNGOはそう多くないと言えますが、ここにTICOの最大の特徴であり魅力があると感じています。この魅力を更に活かし、関わる人や地域が元気で生き活きとられるような挑戦が出来たらと思っています。未熟者ですが、どうぞよろしくお願い致します。



横溝裕子（ザンビア事務所員）

初めまして。4月から週に2日、午前中だけザンビア事務所のお手伝いをさせていただいています、横溝裕子と申します。夫の仕事の関係でザンビアに暮らして、早6年目になりました。

村の人々の生活にしっかり寄り添ったTICOの活動にはいつも頭が下がる思いです。3人の子供たちを追いかけ、追いかけるの毎日ですが、これからもできる限りのお手伝いをさせていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



事務局長 福士庸二のつぶやき

私たちの暮らしから



最近、気になることのひとつに、原発再稼働があります。なんとかこの流れを止めたいと思い、ついに行動に移すことにしました。

それは、電気の購入先を原発を持たない電力会社に変えること。これはある意味、選挙の投票行為と同じだと考えます。

とある記事によると、今年4月に始まった新電力への切り替えは、たった2%にとどまっているそうです。電力会社を変えた人の多くは「安さだけが理由でない」とも言及しています。無関心ではなく、自らの意志を表現することが大切。

『国際協力』とは無縁に思える話題のようですが、将来に負の遺産を残さない選択、これも立派な『国際協力』と思いますが、みなさんはどう考えますか？

巷では、原発の廃炉費用の負担を、今後は新電力にも求めているようにしています。こんなことがまかり通るのでしょうか。



ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方(書き損じはがき等含む)

地造津根子、山下卯彌香、鈴木亜由子、今関英子、関谷晴孝、渡忍、村上久子、ヒラオカ薬局、山田こどもクリニック、唐住洲子、河合純子、石橋万理、中西敬子、森本桂子、さくら診療所、橋本伸子、柏木英里子、金納千晴、中村美恵子、佐藤三千子、笹井美由紀、田岡敬子、畑和子、佐藤晃、北島コーポレーション、峰尾武、田淵規子、美郷の湯、工藤瑠沙香、前出なお子、原田恵子、滝本シゲ子、徳芳郎、佐藤俊明、横溝裕子、寺口美香、原井和子、堺隆弘、平岡仁美、金子正憲、渡部豪、藤野紀子、日浅芳一、寺田由紀、河野南代子、船津まさえ、半田病院、白石勝美・久代、Plan B、池北茂、ヒラシマサトコ、井内一志、阿南市立桑

野小学校、菊谷満子、吉田修、一社) 環境メディアフォーラム、四国労働金庫、羽里信和、豊岡和美、匿名6名

会員を更新された方

原田恵子、尾崎富美子、田所幸枝、町田美佳、井内一志、須藤榮子、垣原宏治、石橋万理、新居智次・和世、ハウエツ病院、浜垣伊津美、高井美穂、中村美恵子、近藤通弘、佐藤三千子、井内誉範・晴子、関野聡美、松田俊太郎、山本秀樹、山田こどもクリニック、古川彩香、塩井英子、大西和賀、松本多江、唐住洲子、柏木英里子、工藤瑠沙香、K's Pet Clinic、松田千文、柳崎義美、新野和枝、杉本尊史、金子正憲、加浦由貴、馬場節子、原田栄枝、大久保洋一、ダスキン川島、池北

洋子、船津まさえ、廣瀬文代、鈴木薫、福士庸二、福士美幸、福井照実、福井康雄、浮森和美、地造津根子、香西邦明、古川久美子、吉田修・益子、吉見千代、渡部知美、吉田純、峯裕恵、松田佳子、中村純子、寺田由紀、寺口美香、田岡敬子、佐治朝子、佐古和雄・友美、瀧浩樹、中村晃一、渡辺大、和田快、饗場和彦、木本豪、瀬戸口千佳、山岡智互、井原宏、匿名2名

新たに入会された方

池田翔子、三好康広、増矢幸子、横溝裕子、前川加奈美、匿名1名

●2016年4月1日～2016年10月31日分

●順不同、敬称略

TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員 個人 ￥12,000

学生 ￥6,000

団体 ￥15,000

正会員 ￥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。

詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。

TICOニュースレター Face to Face 第45号

2016年11月発行 発行人：吉田 修

編集：国金 さつき



ご寄付をお待ちしております！

団体としての活動は継続して行なっており、団体に対する寄付については、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、(トクヒ) テイコ

クレジットカード — ホームページをご覧ください。

募金箱 — さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。

書き損じハガキ — 事務局までお送りください。

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話：0883-42-2271 (平日 9:30～18:30)

メール：info@tico.or.jp / ホームページ：www.tico.or.jp

フェイスブック：www.facebook.com/ticohq